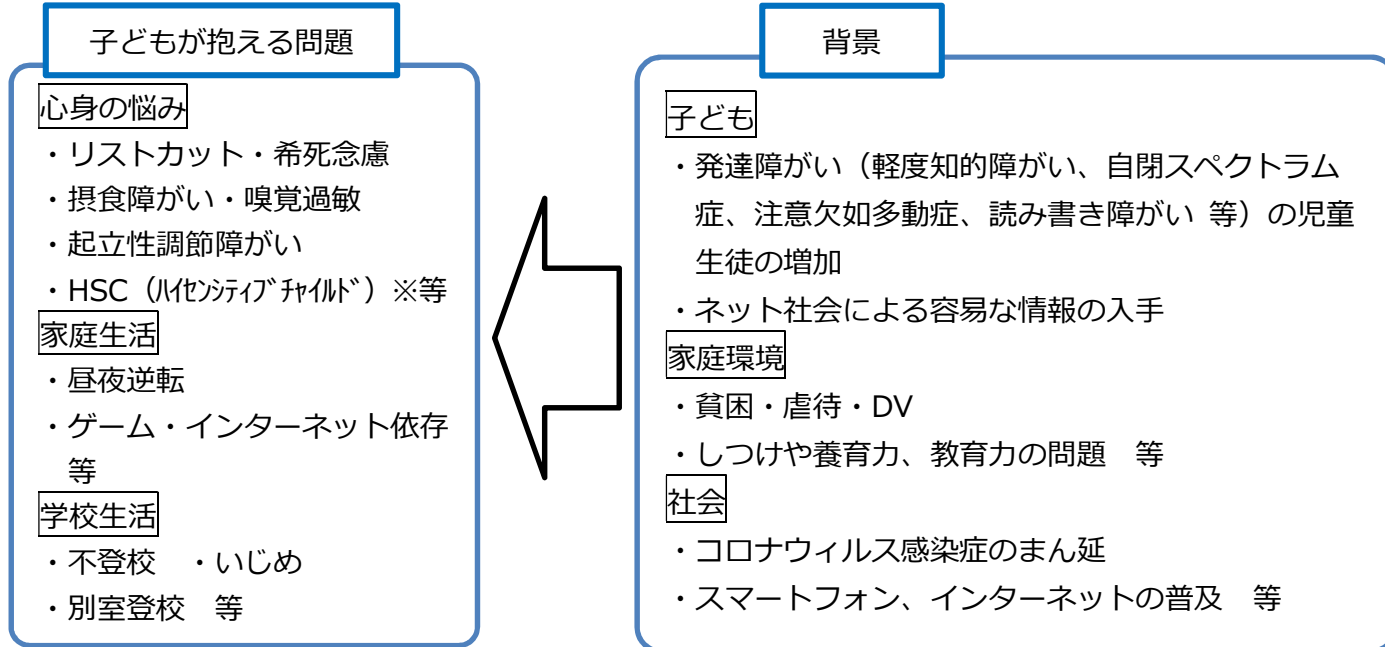




1 多様化・複雑化する子どもの悩みについて

子どもを取り巻く社会情勢の変化、社会全体の価値観や考え方の変化に伴い、子どもや保護者の問題は多様化、複雑化



※HSC：「ひといちばい敏感な子」と訳されることもある。敏感でうるさい環境や集団が苦手といった気質

- 課題
 - ・複数の問題が重層的に絡み合い、児童生徒や保護者への対応が難しかったり、医療・福祉・教育機関・学校等の連携が必要であったりするケースが増加
 - ・相談する力や社会的なつながりが乏しい、相談動機がない家庭等が支援からこぼれ落ちることがある
 - ・子どもの特性に合わせた学習保障のニーズ（フリースクール、夕方登校、別室登校等）が多様化している

2 豊田市の相談支援に関わる人材（子どもや保護者に寄り添う存在の配置）

（1）青少年相談センターの人材

名称	役割	配置	成果
スクールカウンセラー 【以下SCと表記】 （臨床心理士）	・児童生徒へのカウンセリング ・教職員及び保護者に対する助言や援助	・令和3年度市雇用SC55人、 県雇用SC36人計91人配置 （市雇用SC R1:4人、R2:50人） ・基本的に小学校週1日、中学校週2日配置	・学校での相談が増加 ・SCが学校状況を把握しやすくなった ・校内に心理の専門家がいることでの安心感の高まり
スクールソーシャルワーカー 【以下SSW rと表記】 （社会福祉士）	・福祉の視点から面接相談や訪問相談 ・学校や関係機関との連携	・令和3年度はパルクとよたに5名配置（R1:4人） ・28中学校区を5人で担当 ・パルクとよたからの派遣型	・校内委員会に参加できるようになり、学校支援が大幅に増加 ・認知度が高まり、相談が増加

心の相談員	・児童生徒の気軽な相談相手 ・別室登校や教室に入ることができない児童生徒等の対応	・令和3年度90人配置（79校） （R1:75人、R2:87人） ・1校で1～3人配置 ・児童生徒数200人以上の小・中学校は最低12時間 ・児童数が500人以上の小学校は最低16時間	・相談室登校の児童生徒の安心の高まり ・身近に相談できる大人がいる安心感の高まり
パルクとよたのスーパーバイザー 【以下SVと表記】	・市配置SCへの巡回訪問やケース相談 ・市配置SCの力量向上 ・パルク内専門職への研修・支援	・令和2年度より正規職員の主幹・SVとして1人配置 ・臨床心理士、公認心理師、学校心理士スーパーバイザー資格保持 ・特別支援学校教員、大学准教授の経験あり	・心のケア「学校緊急支援体制」の整備 ・巡回、相談によるSCの力量向上 ・学校に向けての緊急対応情報の発信

（2）保護者・学校等からの声

- ・SCや心の相談員の勤務時間が増えたことで、リアルタイムでの相談がしやすくなった。
- ・SCやSSW rから心理や福祉の視点による助言が受けられありがたい。
- ・SCやSSW rに気軽に相談できるようになった。

（3）相談・支援件数の推移

	SC		SSW r 学校派遣回数	心の相談員	
	相談件数			相談件数	
	小学校	中学校		児童生徒	保護者
R1	10,541	5,028	777	7,678	376
R2	13,464	8,809	1,369	9,012	650

3 令和3年度の相談支援体制の充実

（1）SVによるパルク業務の充実

- ①所内会議での助言
- ②青少年相談員への指導・助言
- ③学校で起きた緊急事案への介入・対応

（2）SVによるSCへの巡回訪問や指導の充実

- ①市・県合わせたSC91人全員への巡回訪問の実施
- ②経験の浅いSCを中心にケース相談を行い、SCの不安を解消
- ③SC向けのマニュアルの作成

（3）市雇用SC55人への集合研修（1回）の新設

（4）各学校に教育相談コーディネーターを新設したことによる校内支援体制の充実

4 課題

- ・問題の複雑化・多様化により、関係諸機関との連絡調整が必要な場合が増加しており、他機関との連携体制の強化が必要
- ・人材の育成と優秀な人材の継続的な確保
- ・市域が広く、SSW rへの相談ニーズが高まっており、増員が急務